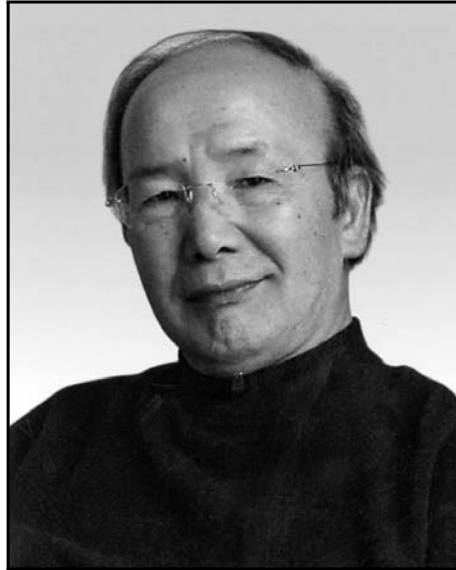


服部民夫先生の略歴・業績一覧



略 歴

- | | |
|------------|---|
| 1947年7月19日 | 大阪府生まれ |
| 1971年 | 同志社大学文学部社会学科卒業 |
| 同年 | アジア経済研究所入所 |
| 1977-79年 | 同研究所海外派遣員（ソウル大学経済研究所、ハーバード燕京研究所客員研究員） |
| 1987-89年 | 同研究所海外調査員（ハーバード大学フェアバンクセンター・フォー・イーストアジア
アンリサーチ客員研究員） |
| 1991年 | 東京経済大学経営学部 教授 |
| 同年 | 九州大学より経済学博士号取得 |
| 1996年 | 同志社大学文学部社会学科 教授 |
| 2002年 | 東京大学大学院人文社会系研究科韓国朝鮮文化研究専攻 教授 |
| 2012年 | 同研究科 名誉教授 |
| 2015年8月5日 | 逝去 |

業績一覧（○印は単著・共著の単行書）

1973年

- ・「(書評) 鈴木栄太郎著『朝鮮農村社会の研究』」『アジア経済』14(10), 1973. 10, pp.92-96.

1974年

- ・「戦前の日本の中国家族研究——牧野巽氏に聞く」『アジア経済』15(4), 1974. 4, pp.62-79.

1975年

- ・「日本・朝鮮における同族概念の比較試論——養子と相続を中心として」『アジア経済』16(2), 1975. 2, pp.60-72.

1976年

- ・「(書評論文) 韓国と日本の家族についての一視角 崔在錫著『韓国農村社会研究』」をめぐって」『アジア経済』17(3), 1976. 3, pp.77-83.

1978年

- ・「韓国・財閥オーナーの経営意識——調査結果報告」(宇山博と共著)『アジア経済』19(7), 1978. 7, pp.69-81.
- ・(翻訳) 李光奎著『韓国家族の構造分析』国書刊行会, 1978. 2.

1979年

- ・「(書評) 金泳謨『朝鮮支配層研究』」『アジア経済』20(8), 1979. 8, pp.114-116.
- ・「韓国的経営とはなにか——日本的経営との比較における試論」『中央公論経営問題』18(6), 1979. 12, pp.242-256.

1980年

- ・「韓国はどこまで来たか——70年代の国民生活水準」『コリア評論』22(217), 1980. 4, pp.11-24.
- ・「朝鮮後期における名門両班の結婚関係——サブ・リニージ連合の形成とその意味」『アジア経済』21(6), 1980. 6, pp.22-56.
- ・「(書評) 森谷正規著『日本・中国・韓国 産業技術比較「比較技術論」からの接近』」『アジア経済』21(10), 1980. 10, pp.117-121.

1982年

- ・「韓国「財閥」の株式所有について」『社会科学』30, 1982. 1, pp.122-169.
- ・「韓国におけるビジネス・エリートの形成」『日本労働協会雑誌』24(2), 1982. 2, pp.77-90.

1983年

- ・「ああ、両班意識——尹学準氏著『オンドル夜話』を読んで」『朝鮮研究』230, 1983. 5, pp.40-45.

1984年

- ・「現代韓国企業の所有と経営——「財閥」系企業を中心として」『アジア経済』25(5/6), 1984. 5, pp.132-150.
- ・「高度成長期における産業エリートの形成——韓国の事例：1962～78」伊藤禎一編『発展途上国のビジネス・リーダーシップ』アジア経済研究所, 1984 (研究双書322).
- ・「(資料) 韓国上場企業の株主構成——1981-82年」『アジア経済』25(7), 1984. 7, pp.70-80.
- ・「(書評) 呉鍾錫著『韓国企業の経営的特質』」『アジア経済』25(1), 1984. 1, pp.103-105.
- ・「(対談) 韓国の企業——日本とどこが違うか」(対談者：鳥羽欽一郎、玉城素)『現代 코리아』241, 1984. 6, pp.20-39.

1985年

- 『韓国の企業「人と経営」：有力20財閥・200社の戦略』(大道康則と共著)日本経済新聞社, 1985.
- ・「韓国「財閥」の徹底研究——転機迎える高度経済成長の担い手」『世界週報』66(31), 1985, pp.28-34.
- ・「韓国の商品貿易と技術貿易」『技術と経済』(221)1985, pp.35-41.
- ・「韓国版, 大学は出たけれど…政治に影落とす経済不振と失業」『世界週報』66(51)1985, pp.22-25.
- ・「韓国の経済開発における財閥の役割 (国際経済学会第43回研究報告全国大会)」『国際経済』36, 1985, pp.245-254.
- ・「韓国の企業と技術移転——生き残りへ転換迫られる韓国企業」『日本経済研究センター会報』496, 1985, pp.36-42.
- ・(座談会)「日韓国交20周年を考える——深まりつつある相互理解」(黒田勝弘、西岡力)『現代 코리아』257, 1985. 12, pp.22-32.

1986年

- ・ *A pattern of skill formation in Korean industries : a comparative study between Korean and Japanese die/mold industries*, co-author with Yoo-Keun Shin, Institute of Developing Economies, 1986 (JRP series ; no.54).
- ・「政治と人間関係ネットワーク」小牧輝夫編『朝鮮半島——開放化する東アジアと南北対話』アジア経済研究所, 1986 (調査研究レポート9).
- ・「韓国産業経済の特質」『化繊月報』461, 1986, pp.21-27.
- ・「韓国の輸出競争力と技術」『日本貿易会月報』385, 1986, pp.31-34.
- ・「ダッチロールする韓国経済」(特集 試練に立つ昇竜韓国)『知識』51, 1986, pp.82-91.
- ・「アジア大会景気に沸く韓国経済——今年末には再びスローダウンの恐れも」『世界週報』67(29), 1986, pp.18-23.
- ・「高度経済成長期を体験した韓国労働者の意識の変化と確執が表面化した労使関係」『スチールデザイン』

ン』 275, 1986, pp.30-31.

- ・「大韓民国」(日本における発展途上地域研究 1978-85/地域編) (桜井浩と共著) 『アジア経済』 27(9/10), 1986, pp.134-141.
- ・“Technology transfer and management systems,” *The Developing Economies*, 24(4), 1986 Dec., pp.314-325.

1987年

○『韓国の工業化——発展の構図』(編著) アジア経済研究所, 1987 (アジア工業化シリーズ; 2).

- ・「韓国政治エリート研究資料——職位と略歴」(鐸木昌之と共編) 東京大学東洋文化研究所附属東洋学文献センター, 1987. 3. (東洋学文献センター叢刊; 第52輯).
- ・「大字造船や現代自動車など韓国企業はこれからどうなる」『NEXT』 4(10), 1987, pp.76-78.
- ・「躍進を続ける韓国経済」『日本貿易会月報』 397, 1987, pp.44-48.
- ・「加工型」経済への離陸に何が必要か——機械工業、部品工業の育成が急務」『エコノミスト』 65(45), 1987, pp.40-45.
- ・「近代的労使関係への“陣痛” 待遇改善へ立ち上がった韓国の労働者」『世界週報』 68(38), 1987, pp.22-25.
- ・「韓国の追い上げと企業の対応 (国際経済)」『Business Research』 754, 1987, pp.48-55.
- ・「新たな脱皮をせまられる工業化」『現代コリア』 274, 1987, pp.48-59.
- ・(座談会)「これからの課題と日本の対応——技術移転への批判をPRで解消」(特集 アジア NICs の実像) (小浜裕久、山崎健) 『日本経済研究センター会報』 534, 1987, pp.32-38.
- ・(座談会)「新たな脱皮をせまられる工業化」(特集 揺れる韓国 「成熟」は本物か) (鳥羽欽一郎、倉持和雄、鈴置高史) 『現代コリア』 274, 1987.9 : p.48-59.

1988年

○『韓国の経営発展』 文真堂, 1988.

○『日本이 본 韓國工業化의 政治・經濟學』(金光琳 譯) 産業研究院, 1988 (번역시리즈 제 85 호).

1989年

- ・「所有と経営の分離は可能か——構造転換のなかの財閥の行方」『週刊東洋経済』 4845, 臨時増刊, 1989. 3. 10, pp.59-65.
- ・“Hyundai motor company: the new standard-bearer of Korean industrialization,” *East Asian cultural studies*, 28(1/4), 1989 Mar., pp.45-61.

1990年

- ・「北米における韓国製品」小牧輝夫編「国際化時代の韓国経済」アジア経済研究所, 1990, pp.145-172.

1991年

- 『日本이 본 한국의 기업경영과 재벌』柳漢晟, 鞠重鎬 共譯. 和平社, 1991.
- ・「ネットワーク論の試み (1) (2) (3) ——朝鮮朝時代における人間関係と権力」『アジア経済』32(6, 9, 10), 1991. 6, 9, 10, pp.59-82, 64-92, 45-103.
- ・「内需主導経済の脆弱さを露呈した韓国——貿易相手国への影響を注視」(特集 湾岸戦争——アジアへの衝撃度は?) 『エコノミスト』69(14), 1991. 4. 2, pp.50-53.
- ・「韓国工業化の経験——工業化のモデル?」『ラテンアメリカ・レポート』8(1), 1991. 3, pp.16-23.

1992年

- 『韓国——ネットワークと政治文化』東京大学出版会, 1992 (東アジアの国家と社会/猪口孝編; 4).
- ・「宮沢訪韓 宿題として残った日韓経済摩擦——南北統一促進には日本も貢献を」『エコノミスト』70(5), 1992. 2. 4, pp.52-55.
- ・「韓国: 高度成長を実現した家族支配が限界に——先進国化と世代交代で変貌する」(特集 東アジアの財閥はいま) 『世界週報』73(31), 1992. 8. 11, pp.51-58.
- ・(書評)「小林謙一、川上忠雄編『韓国の経済開発と労使関係——計画と政策』」『日本労働研究雑誌』34(7), 1992. 7, pp.38-41.

1993年

- ・「金泳三政権下の韓国経済をどうみるか」『日本貿易会月報』475, 1993. 5, pp.19-25.
- ・「新大統領が直面する韓国経済3つの課題——鄭周永候補の健闘が示すものは」『エコノミスト』71(2), 1993. 1. 12, pp.52-55.
- ・「韓国経済は甦るか」『外交フォーラム』6(2), 1993. 2, pp.10-16.
- ・「韓国——大邱水質汚染事件」小島麗逸・藤崎成昭編『開発と環境——東アジアの経験』アジア経済研究所, 1993 (開発と環境シリーズ1).
- ・「朝鮮社会の1つの見方——人間関係からの接近」(特集 朝鮮近現代史における連続と転換) 『朝鮮史研究会論文集』31, 1993. 10 : pp.5-27.

1994年

- ・「韓国「財閥」の将来——「財閥の成長と衰退」試論」牧戸孝郎編著『岐路に立つ韓国企業経営——新たな国際競争力の強化を求めて』名古屋大学出版会, 1994.
- ・「経済成長と「財閥」の形成」中兼和津次編『講座現代アジア2 近代化と社会変動』東京大学出版会, 1994.
- ・「韓国「財閥」の所有と経営・再論」『東京経大學會誌』188, 1994. 9, pp.21-50.

1995年

- ・「現代韓国経済事情」『国際交流』18(1), 1995. 10, pp.46-51.

・「日韓経済関係の30年（上）」『現代コリア』357, 1995. 12, pp.20-35.

1996年

○『韓国・台湾の発展メカニズム』（佐藤幸人と共編）アジア経済研究所, 1996.（研究双書464）.

・「日韓経済関係の30年（下）」『現代コリア』358, 1996. 1/2, pp.34-49.

・「日韓経済・政治関係の現状と展望」『日韓経済協会協会報』298, 1996. 7, pp.20-32.

・「最近の韓国の政治・経済情勢」『日本貿易会月報』518, 1996. 9, pp.33-39.

・「最近の韓国経済と南北関係」（特集 朝鮮半島の力学）『海外事情』44(10), 1996. 10, pp.14-27.

1997年

・「環境問題にみる成長と経営の倫理」『Human studies』18, 1997. 3, pp.18-22.

・「日本における韓国に関する社会学的研究」『同志社社会学研究』1, 1997. 3 : p.19-29.

・「韓国の政治と社会」『国際文化研修』5(3), 1997.10, pp.8-13.

・“A comparative study of development mechanisms in Korea and Taiwan: introductory analysis,” co-author with Sato, Yukihito, *The Developing economies*, 35(4), 1997 Dec., pp.341-357.

・“Chaebol-style enterprise development in Korea,” *The Developing economies*, 35(4), 1997 Dec., pp.458-477.

・“Sociological Findings from South Korea,” *International journal of Japanese Sociology*, 6, 1997, pp.51-59.

・“Japan and the Korean Peninsula: The Economy of South Korea and Economic Cooperation after Unification,” Robert Dujarric ed., *The Future of Korea-Japan Relations: Proceedings of the Hudson Institute/East Asian Security Study Group Conference*, Hudson Institute, 1997.

1998年

・「韓国経済は甦るか？ 遅れた経済調整のツケ」（特集 金大中政権の韓国）『世界』646, 1998. 3, pp.177-185.

・「アジア系移民の統計的分析」森川真規雄編『先住系アジア系アカデミアン—変容するカナダ多文化社会』行路社, 1998.

・「トロントにおける韓国人社会——覚書き」同上書所収.

1999年

・「財閥解体と経営の継続——日本における財閥解体の経験」『評論・社会科学』59, 1999. 3, pp.1-33.

・“Economic development and technology accumulation: experience of South Korea,” *Economic and political weekly*, 34(22), 1999 May 29, pp.M 78-M 84.

・「「組立型工業化」の成功と挫折——韓国を中心として」『アジア研究』45(2), 1999. 8, pp.1-21.

・「アジア諸国における中間層論の現在」（鳥居高, 船津鶴代と共編）日本貿易振興会アジア経済研究所, 2000.（調査研究報告書 地域研究第1部；1999-3-04）.

・（書評）「深川由起子著『韓国・先進国経済論』」『産業学会研究年報』14, 1999, pp.94-95.

2001年

- 『韓国経済の解剖——先進国移行論は正しかったのか』松本厚治と共編著. 文眞堂, 2001.
- ・「アジア市場における日韓製品の角逐」野副伸一・朴英哲編『東アジア経済協力の現状と可能性』慶應義塾大学出版会, 2001 (日韓共同研究叢書; 1).
- ・「日韓大企業集団の形成と変容」(特集 韓国の経済危機への制度的アプローチ——企業集団の発展に関する日韓比較)『NIRA 政策研究』14(9), 2001. 9, pp.28-35.
- ・「韓国社会研究の意義と課題」(特集 現代アジアから日本をみる)『社会学雑誌』(18), 2001, pp.16-28.
- ・“Problems Concerning the Social Development of South Korea”『同志社社会学研究』5, 2001. 3, pp.69-84.

2002年

- 『アジア中間層の生成と特質』船津鶴代, 鳥居高と共編. 日本貿易振興会アジア経済研究所, 2002 (研究双書 521).

2003年

- 『日本型資本主義——どうなる どうする 戦略と組織と人材』(宮本又郎他と共著)有斐閣, 2003.
- ・「1990年代における日韓中機械類貿易の現況」野副伸一・朴英哲編『東アジア経済協力の現状と可能性 II』慶應義塾大学出版会, 2005 (日韓共同研究叢書; 8).
- ・「経済危機を前後する韓国の労働市場」『えーじえっくれぽーと』33, 2003. 11, pp.12-27.

2005年

- 『開発の経済社会学——韓国の経済発展と社会変容』文眞堂, 2005.
- 『韓国社会と日本社会の変容——市民・市民運動・環境』(金文朝と共編著)慶應義塾大学出版会, 2005 (日韓共同研究叢書; 10).
- ・(学界展望)「現代韓国朝鮮学会——設立の経緯と第5回全国研究大会の紹介」(小此木政夫、朴一と共著)『アジア経済』46(9), 2005. 9, pp.62-73.

2006年

- 『日韓政治社会の比較分析』張達重と共編著. 慶應義塾大学出版会, 2006 (日韓共同研究叢書; 18).
- 『한국사회와 일본사회의 변용: 시민·시민운동·환경』(김문조와 공편) 아연출판부, 2006. 7 (한일공동연구총서).
- ・「日韓財閥のサステナビリティ——危機後の韓国財閥と最末期三井財閥を中心として Sustainability of chaebol: zaibatsu in Korea and Japan」(研究代表者)2006 (科学研究費補助金(基盤研究(B))研究成果報告書;平成15年度-平成17年度).
- ・「経済発展と同姓結合」吉原和男, 鈴木正崇, 末成道男編『〈血縁〉の再構築 ——東アジアにおける父系出自と同姓結合』(軽装版)風響社, 2006.

2007 年

- 『東アジア経済の発展と日本——組立型工業化と貿易関係』東京大学出版会, 2007.
- 『개발의 경제사회학: 한국의 경제발전과 사회변동』유석춘, 이사리 옮김. 전통과현대, 2007.
- 『한일 정치사회의 비교 분석』(장달중과 공편) 아연출판부, 2007. 11 (한일공동연구총서).
 - ・「貿易関係より見る韓国機械産業の競争力」奥田聡編『韓国主要産業の競争力——研究会中間成果報告』(調査研究報告書)日本貿易振興機構アジア経済研究所, 2007. 3.
 - ・「韓国の経済・経営の現状をどう理解するか」『えーじえっくれぼーと』43, 2007. 2, pp.39-47.
 - ・「(書評) 岩田(沈) 奇志・岩田龍子著『中国企業の経営改革と経営風土の変貌』」『世界経済評論』51(8)(624) 2007. 8, pp.61-63.

2008 年

- ・「(書評) 鄭章淵著『韓国財閥史の研究—分断体制資本主義と韓国財閥』」『社会経済史学』73(5), 2008, pp.563-565.
- ・「(書評) 同時代史学会編『朝鮮半島と日本の同時代史——東アジア地域共生を展望して』」『歴史と経済』50(3), 199, 2008. 4, pp.56-58.
- ・「(書評) 末廣昭著『ファミリービジネス論——後発工業化の担い手』」『アジア研究』54(2), 2008. 4, pp.104-108.

【付記】

アジア経済研究所の安倍誠先生が、同研究所及び国会図書館 OPAC、CiNii 等各種データベース、資料より作成されたものを、再編集して掲載させていただきます。快く掲載を許諾して下さった安倍先生に、この場を借りてお礼申し上げます。

